

大洗研究所 (常陽)
 地震・津波等に関するコメントリスト (ヒアリング)

日付	No.	資料名	コメント	回答	修正後 資料ページ
2021.07.20	1	新規制基準上の主冷却機建物抑止杭の取り扱いについて	抑止杭について、杭周辺地盤も含めて新規制基準適合上の取り扱いを説明すること。	今回ご説明	8~11
"	2	"	採用している規格基準（最新斜面・土留め技術総覧）は、地すべり斜面の規格基準であることから、規格基準の適用範囲(地形、防護対象施設(主冷却機建物)の重要度、地震力等)を踏まえ、抑止杭を基礎地盤のすべり抑制に適用できるとした根拠を整理すること。	"	28
"	3	"	主冷却機建物のすべり安全率を確保する前提として、抑止杭の安定性確認が必要であり、以下について確認結果を示すこと。 ・抑止杭の根入れ部（不動層）におけるすべり安全率 ・根入れ部の水平力が受働土圧（受働抵抗）を超えて不安定になっていないこと（すなわち根入れ不足）	"	38~39
"	4	"	杭の応力分布について、東側と西側で異なっていることから、差異が生じている要因の考察を追加すること。	"	32
"	5	"	設定している移動層の厚さについて、規格基準に基づき設定しているとしていますが、地盤との関係についても資料に追加すること。 また、杭間隔については、移動層の厚さとの関係から目安値があるとしているが、移動層の厚さ以外に、地盤の性状や物性が関係しないのか、説明を追加すること。	"	14
"	6	"	抑止杭のモデル化（施工：千鳥配列、モデル：1列配列）の考え方について、解析結果を踏まえ、適切である旨の考察を追加すること。 また、その際に、列同士の間隔についても(東側鋼管杭は、図面上は共同溝を挟んで3m以上の間隔があると思われる)、1列配列モデルが適切であることの考察を追加すること。	"	23
"	7	"	東側の杭について、建物に近い配置となるが、建物への影響の有無について確認し、資料へ追加すること。	"	14
"	8	"	杭配置の間隔について、東側（共同溝部分）で杭間隔が異なる部分があること、東側は西側より杭列の間隔が広いことが構造上問題ないか確認し、資料へ追加すること。	"	14
"	9	"	ケーシングを引き抜いた後の地盤と杭の間の充填について説明すること。 また、地盤と杭の間の充填については、No.12と関連して地盤と杭との密着性を担保し、すべり安定性を確保する観点から施工管理項目として重要と考えられるため、施工管理項目の考え方について説明を追加すること。	"	18

大洗研究所 (常陽)
地震・津波等に関するコメントリスト (ヒアリング)

日付	No.	資料名	コメント	回答	修正後 資料ページ
"	10	"	根入れ深さの設定について、数値が追えるよう計算根拠に記載すること。	"	15~16
"	11	"	抑止杭を考慮したすべり安全率の算出方法に用いている式について、出典、適用性について資料へ追加すること。 また、地盤と抑止杭(抑止杭は、中詰モルタルを強度評価で考慮していないが、実際にはせん断抵抗力がある)では、大きくせん断抵抗力が異なると考えられる(一般に、地盤に比べて抑止杭のせん断抵抗力の方が大きい)が、地震の動きに対して地盤が抑止杭と共に追随し、地盤と抑止杭にずれが生ずることなく評価算出式が適用可能であることを説明すること。	"	25、39
"	12	"	鋼材の腐食しろについて、どのように考慮したかわかるよう資料を修正すること。	"	25
"	13	"	建物と機器への影響について、加速度応答スペクトルによる確認結果も資料へ追加すること。	"	45
"	14	"	高浜発電所の抑止杭の配置が、常陽と同様に千鳥配列であることを確認したうえで、資料を修正すること。 また、図(杭の配置図)の向きをわかりやすいように高浜発電所の図と合わせて修正すること。	"	48
2021.09.14	15	"	地盤改良について、他の工法と比較して、抑止杭を選定した理由を説明すること。	"	6~7
"	16	"	新規規基準適合上の評価項目(すべり安全率)とすべり評価を成立させるための確認項目(杭の応力等)に分けて資料を修正すること。	"	9~11